

# 小樽ゆねすこ



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



小樽ユネスコ協会

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

(ユネスコ憲章前文より)



第40回英語祭入賞者勢揃い！



ユネスコ世界文庫贈呈式

### ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう



## テロリズム

小樽ユネスコ協会会長 丸田 謙二郎

IS (Islamic State=イスラミック・ステート=イスラム国) の台頭とその残虐な行為は世界を震撼させた。先般日本人が犠牲になって、日本国内外のマスコミは大々的に取り上げた。現在はIT技術を使ったFacebook、Twitter、YouTubeなど瞬時に世界を駆け巡る。13年前のアメリカ同時多発テロや現在ヨーロッパ各地でも起こっているテロの恐怖。今や2020年東京オリンピックが標的にされるのではないかと、などと言う風評すら気になるところである。

思えば、人類の歴史を遡ると、テロ (terror=恐怖)、テロリズム (terrorism) は何時も何処にもあったと言えます。中でも戦争は最も大きなテロである。民族間や宗教の対立、国家間の争い、特に世界を舞台にした2回に及ぶ世界大戦。複雑化した内部抗争には枚挙に暇がない。人種に優劣をつけるが故の大虐殺すら起こったのである。

さて、1789年7月14日バスティーユ襲撃に始まり1799年ナポレオンが第一執政となったフランス革命。その間、1793年5月～翌年7月まで「恐怖政治」が行われた。ロベスピエールの下、反抗勢力4万人を処刑したと言うのである。今やあらゆる分野で世界に冠たる国、フランスでもテロの嵐が吹き荒れていたのである。

UNESCO憲章前文に、「相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった(中略)政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない(中略)すべての人に教育の充分で平等な機会が与えられ(後略)」とある。平和には、教育こそが長期的には必要欠くべからざることと言うのである。さればこそあのマララ・ユスフザイさんの“女性の教育こそ優先されるべき”との主張には、至極同感できるのである。

# 第40回ユネスコ英語祭を終えて

英語委員長 吉田道夫

わが小樽ユネスコ協会が主催する大イベント・英語祭は、まさに節目の40回大会を迎え、10月26日小樽市公会堂において盛大に開催されました。

長年行っているイベントというものは、概してマンネリに陥る事が多いものですが、出場者が毎年変わるフレッシュさもさることながら、ユネスコ会員の熱意によって、運営も少しずつ改革を続け強力なチームワークをもって成し遂げられたと思っております。

いつも心配される出場者数については、今年は約40名、対話と劇の出場はなくスピーチ部門が19名もいて競い合いました。

記念大会のアトラクションとしては、地元の「浅原富希子とその仲間たち」をスペシャルゲストとして迎えました。

ノリの良い英語の歌をパワフルに歌い踊って大会を盛り上げ、参加者や聴衆の皆さんを大いに楽しませてくれました。

40回大会のもうひとつの目玉は、特別賞の設定でしたが、該当者は一名、ここ数十年継続してスピーチや朗読などに出場、挑戦を続けた努力と実績を認め、寺谷厚子さんが表彰されました。高齢ながら、今後とも英語に親しみ精進を続けるよう期待したいものです。

また、今大会より審査のより公正を期するため審査席を中央最前列に移しました。出場者の発音や発表状態をしっかり把握できて、変更は適切かつ有効だったと思います。

例年支援をいただいている小樽市教育委員会から来賓としてご臨席下さった上林教育長が英語で開会式のご挨拶をされ、英語教育に対する熱意が感じられるすばらしいスピーチをして下さいました。

今年の特別スピーチですが、市教委派遣のALTで英国出身のロシャ・サラさんは「ウェールズと北海道の相違点」を、小樽商大留学生で中国出身のシュ・デイン・ヨアンさんは「私にとって大学教育は何を意味するか」を、スペイン出身のディエス・パラ・アナさんは、「スペインと日本の二元性（2013/2014）を考える」と題し、いずれも興味深いスピーチで、同感や理解が得られたのではないかと感じました。

歌・暗唱・朗読・スピーチといずれも練習を重ねたレベルの高い発表が多かったのですが、やはり特筆されるのは、「私のすばらしい夏休みの体験」と題するスピーチでユネスコ会長賞を獲得した斎藤輝紀君（4年生）で、発表態度、発音などどれも抜群だったように思います。

次回第41回英語祭にも大勢の皆さんの挑戦を期待しています。

## 第40回小樽ユネスコ英語祭 入賞者

賞名	部門	氏名	学校・学年
小樽ユネスコ会長賞	スピーチ	斎藤輝紀	望洋台小4年
小樽市長賞	スピーチ	佐藤百花	銭函中3年
小樽市教育長賞	暗唱	長澤萌	小樽桜陽高1年
国際ソロプチミスト 小樽会長賞	歌	奥村木歩	札幌国際情報高1年
北海道新聞社賞	スピーチ	菊池志歩	札幌国際情報高1年
STV賞	スピーチ	佐竹小雪	稲穂小3年
小杉八千代賞	歌	井上瑠璃音	西陵中3年
努力賞	暗唱	大門遼	松ヶ枝中2年
努力賞	スピーチ	佐々木咲羽	花園小6年
努力賞	スピーチ	吉川みずき	花園小3年
特別賞	朗読	寺谷厚子	一般



## ジャッジを担当して

会員 星 功

第40回ユネスコ英語祭に私は審査員として参加、多種多彩なる部門で若い年代層の一年間のたゆまぬ努力の結果を評価させて頂きました

昨今、グローバル化する世界情勢に対応する為に英語教育を開始する年代も小学5・6年から小学3・4年に移行されようとしております。それに伴って、小樽市内でも、英会話教室も相当数に達しており、今回のユネスコ英語祭でもそれを反映してか多くの参加者があった事は喜ばしい事でありました。

また海外からの豪華クルーズ船の寄港も多くなり、小樽を訪れる外国人観光客も日増しに増加してきております。しかしながら、英会話の需要は増大し続けているものの、十分なサービスを施せないのが現状であります。その様な意味からも、今回の英語祭は小樽市及び近郊の英語教育、英語力、そして英語教育の浸透性を把握するのに、有意義であったと思います。

今回の英語祭では40数人の参加者が「暗唱」、「朗読」、「スピーチ」、「歌」等で競い合いました。評価の基準となったのは、発音、表現力、イントネーションでしたが、特にスピーチ部門では暗唱度が非常に弱かった印象があります。スピーチ内容を暗唱している事は特に大切で、内容を十分に理解しているならば、それに応じた表現力も豊富になるのは必然的なのです。

小樽市には英語圏から派遣されている二名のALT (Assistant Language Teacher) がいます。この先生方は小樽市の小中学校で授業を担当し、英語教育のみならず、国際理解教育の目的の為に貢献しているのです。小樽市の児童には素晴らしい機会でありますので、おふたりには機会ある毎に最善を尽くして頂きたいと願っています。



「浅原富希子と仲間達」パワフルに歌い踊る！



ジャッジの先生方

## 市立小樽図書館

# ユネスコ世界文庫

昭和49年開設の「ユネスコ世界文庫」、世界に視野を広げるのに役立つ図書を選んで毎年寄贈を続けてきました。

今年度も、コーアクション活動で得た資金から13冊を加え、累計1779冊となりました。

### みなさんぜひ利用してください!!

- ◇マララ 教育のために立ち上がり、世界を変えた少女 (マララ・ユスフザイ 著)
- ◇こころ自由に生きる練習 良寛88の言葉 (植西 聰 著)
- ◇ジャーナリズムの現場から (大鹿 靖明 編著)
- ◇八月十五日の神話 終戦記念日のメディア学 (佐藤 卓己 著)
- ◇世界教育戦争 優秀な子供をいかに生み出すか (アマング・リブリー 著)
- ◇没落する日本 強くなる日本人 (小笠原 泰 著)
- ◇東京駅「100年のナゾ」を歩く 図で愉しむ「迷宮」の魅力 (田村 圭介 著)
- ◇未来予測を喰え! (神永 正博 著)
- ◇「感染症パニック」を避け! リスク・コミュニケーション入門 (岩田 健太郎 著)
- ◇イスラム国の正体 (黒井 丈太郎 著)
- ◇日本の古代道路 道路は社会をどう変えたのか (近江 俊秀 著)
- ◇ヒトラーはなぜユダヤ人を憎悪したか「わが闘争」と「アンネの日記」 (林 順治 著)
- ◇インドネシアが日本の未来を創る そして日本がインドネシアの未来を創る (菅原 明子 著)

## あなたもユネスコの仲間

### ◎ユネスコ活動って?

第2次大戦終結後、国連にUNESCOが設立され、善良な隣人として互いに平和な生活ができる世界をつくるため努力しようと「ユネスコ憲章」が定められました。

その理念や精神に共鳴した人々によって、1947年、世界に先がけて仙台から発信されたのが、市民の立場でUNESCOを支援していこうという民間ユネスコ運動です。

民間ユネスコ団体は、100ヶ国に約4,000あり、現在、日本国内には282協会、道内には19のユネスコ協会があります。

### ◎小樽ユネスコ協会

北海道では、1948年に札幌で、翌49年に小樽ユネスコ協会が道内2番目に発足しました。

以来、全国のユネスコ協会と力を合わせて世界寺子屋運動や東日本大震災子ども基金の継続的な支援に協力し、英語教育やコミュニケーションの分野にも力を入れて取り組んでいます。

### ◎書き損じハガキ…は何の役に立っているの?

民間ユネスコの主要な活動である世界寺子屋運動支援のため、書き損じハガキや未使用テレカを寄付していただき、企業の協力で現金化して寺子屋の建設や学用品の購入、大人の職業訓練などに使われます。

通年回収しています。ご協力をお願い致します!

### ◎いつでも入会できます。

・年会費 4,000円 (正会員) 5,000円 (維持会員)  
10,000円 (賛助会員)

・ホームページ <http://www.unesco.or.jp/otaru/>

・e-mail [otaru@unesco.or.jp](mailto:otaru@unesco.or.jp)

・問い合わせは TEL 54-2075 安達

# 第5回 カレンダーリサイクル市 継続、出会いを力にして

環境委員長 丸 田 孝 子

今年度も、1月11日から14日まで2つの会場で実施することができました。

第5回目ともなると、「継続は力なり」を実感したものです。

2011年の初回、会場の一つが、マイカルのフリーマーケット催場でした。成人式の日もあり、人出は多いかと思いきや、幾組かの振袖姿はあったものの、通行人は少なかったのです。

通路に面した一坪程のスペースを借り、カレンダーを広げたものの、地面に並ぶカレンダーを一べつただけで人は去っていきました。

フリーマーケットに出店している人たちやそのなじみの方々が、気の毒がって協力してくれたのが身に沁みたるものです。

この経験から、会場を長崎屋の他に、小樽市総合福祉センター4階の一部屋をお借りすることになりました。「ふと、目に止まったから」という

場所ではなく、「わざわざ出向く」という会場ではありますが、年々人が増えて嬉しい限りです。

喜んでいただけるカレンダーの大きさ、絵柄、文字など回を重ねる度にわかってきて手応えを感じてきていますし、手帳や卓上カレンダーなどもたくさん揃えてあります。

「この日を待っていましたよ」という方にたくさん出会いました。豊富な絵柄を楽しまれているかのように眺めている方、寺子屋運動などユニスコ活動に興味を示される方にもたくさん出会いました。

お陰様で過去最高の成果を収めることができました。

ご協力下さいました方々、励まして下さった方々に深く感謝申し上げます。



## 5回目を終えて

事務局次長 田 澤 真 弓

札幌ユニスコ協会の協力のもと、手探りで始めたカレンダーリサイクル市が5回目となり、2015年の1月は、あわただしくアツという間に過ぎました。

回を重ねてきて、要領も手順も良くはなつたつもりでも、札幌での選別（同じものが重ならない）数量（多すぎず、少なすぎず）今年の現場担当者は優しい人だろうか？不安は尽きません。

それに、小樽での「市」をやるための会場選び、会場代がかからないこと、交通の便等、頭を悩ますことばかりですが、年々定着し、リピーターが増え品出しを手伝ってくれる人もおり、開店前、販売時、閉店時もうれしい悲鳴です。

来場者はお天気にも左右されますし、とりわけ新聞のニュースで紹介されると万歳！です。

今年度はやっと協力額が10万円を超え、寺子屋運動や東日本大震災子ども基金、図書館への図書寄贈等を行うことができました。さあ来年に向けて出発です。



新聞にもとりあげられました！

## カレンダーリサイクル市 5年間のまとめ

回数	実施日	会場	益金	寄付先
第1回	2011		¥42,113	ユニスコ世界寺子屋運動 市立小樽図書館ユニスコ世界文庫
		1/8(土) 1/9(日)		
第2回	2012		¥89,111	東日本大震災子ども支援奨学金 世界寺子屋運動 市立小樽図書館ユニスコ世界文庫
		1/8(土) 1/9(日)		
第3回	2013		¥110,100	東日本大震災子ども支援奨学金 世界寺子屋運動 市立小樽図書館ユニスコ世界文庫
		1/8(日) 1/9(祝)		
第4回	2014		¥85,229	東日本大震災子ども支援奨学金 世界寺子屋運動 市立小樽図書館ユニスコ世界文庫
		1/11(水) 1/12(木)		
第5回	2015		¥136,967	東日本大震災子ども支援奨学金 世界寺子屋運動 市立小樽図書館ユニスコ世界文庫
		1/12(土) 1/13(日)		
		1/10(金) 1/11(土)		東日本大震災子ども支援奨学金 世界寺子屋運動 市立小樽図書館ユニスコ世界文庫
		1/11(土) 1/12(日)		東日本大震災子ども支援奨学金 世界寺子屋運動 市立小樽図書館ユニスコ世界文庫
		1/12(祝) 1/13(火)		東日本大震災子ども支援奨学金 世界寺子屋運動 市立小樽図書館ユニスコ世界文庫

# カレンダーリサイクル市

会員 中川 めぐみ

「カレンダーリサイクル市」は、私にとってはユネスコでの一番楽しい活動です。

事前の準備や全日程への参加はできないので、一番大変なところを体験していないから……かも知れません。

「カレンダーリサイクル市」の良さは、余ったり不要になったカレンダーを欲しい人に使っていただけること、その時にカンパ金をいただけること、そのお金がユネスコ活動のために使われることにあります。

私がお手伝いした福祉センター1日目の販売には、大勢の市民の皆さんが足を運んで下さり、希望のカレンダーと一緒に探したりお話をしたりしてとても楽しかったです。

接客業の経験のない私にとって、好みを聞きながら対応したり、品物（カレンダー類）を見やすいように並べる工夫をしたり、いろんなことが新鮮な学びになりました。

それと、私は今回、福祉センター販売終了後、第二会場長崎屋への商品搬入を担当しました。

丸田環境委員長と二人で、荷積み・荷おろしの重労働を私の車で三往復（！）もちろん他の皆さんも片付けや荷造りなど大変だったのですが、「体力」が最も要求される大仕事をこなしただけで、ユネスコの皆さんに「頼もしい」とたくさんのお褒めの言葉をいただきました！

この体験から声を大にして言いたいことは、もっとたくさん若いユネスコ会員が増えて、活動に参加して欲しいということです。

ボランティア活動は大変だけど力を合わせることが楽しい、と思ってもらえるといいな。

私たちの生活の中で誰にでもできる活動、カレンダーリサイクル。来年もご一緒にお目当てのカレンダーを探しましょう！！



（長崎屋会場）  
みなさん真剣に  
選んでいます！



## UNESCO 情報

### 日本で18件目の世界遺産誕生！『富岡製糸場と絹産業遺産群』

2014年6月、カタールのドーハで第38回世界遺産委員会が開催され、群馬県の「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産リストに登録されました。

高品質生糸の大量生産をめぐる日本と世界の相互交流、及び世界の絹産業の発展に重要な役割を果たした技術革新の主要舞台という点が評価されました。

### 2015年はUNESCO創設70周年！

1945年11月16日、ロンドンでユネスコ憲章が採択されました。2015年、UNESCOは創設70周年を迎えます。

記念行事は既に始まっており、2014年10月31日故ネルソン・マンデラ氏追悼記念行事がユネスコ本部で開催されました。一連の記念行事は2015年11月まで続くそうです。

### ANAとUNESCO

2013年9月、UNESCO公式サポーターとなったANAは、UNESCO国際協力プログラムへの協力と啓発活動に日ユ協連とともに取り組んでいます。国際線運航機材に「UNESCOロゴ」と「We Support UNESCO」の文字が描かれたラッピング（貼付）ジェットが今後22機飛ぶ予定。ユネスコロゴのついた飛行機を探すのも楽しいかも。

# 大会参加報告

## 第70回日本ユネスコ運動全国大会in知床

### ◇日時及び会場

6月7日(土) ゆめホール(斜里町)

### ◇全国から約600人参加(うち韓国31人、中国2人)

今回の第70回大会は2009年設立の知床ユ協が引き受け、北海道での開催としては5回目になります。小樽からは、吉田副会長、安達事務局長、そして私の3名が参加しました。2年前に全道大会が知床でおこなわれたばかりであり、今回の参加が少人数になったのは止むを得ないでしょう。

知床は10年前にユネスコ世界遺産に登録されたこともあり、地域の特徴をふんだんに活かしたユニークな大会となりました。基調講演「世界遺産の危機」、提言「知床は未来に何を示し何を残せるか」や、「パネルディスカッション～地球環境の保全を知床から考える」では、今後に大きな問題が横たわっていることを指摘しました。「知床世界自然遺産のこれまでとこれから」、「世界遺産の森林と知床の森林再生」、「温暖化がオホーツク海の海水に与える影響と世界の海」、「世界の生物保護の現状と知床が果たすべき役割」等々。最近の調査で、河川の補修には鮭の魚道確保が不可欠とのこと等も裏付けに。

地元の高校、標津、斜里、清里、羅臼(ユネスコスクール)の参加はこれからのユネスコ活動を考える時、大いに勇気づけられました。

♪知床の岬にハマナスの咲くころ♪が思い出され、北方領土の問題が今だ解決されないという現実にも、なんとも言えぬものを感じました。

(会長 丸田謙二郎)



## 第48回北海道ユネスコ大会

(2014北海道ブロックユネスコ活動研究会)

### ◇日時及び会場

2014年10月25日(土) 札幌かでの2・7

### ◇テーマ

希望の未来を拓く、ESD・ユネスコ活動

—地域・スクールとの連携をめざして

6月に、ユネスコ世界遺産の地知床で全国大会が実施され、今年的全道大会は半日日程の簡素な形で行われました。

道内におけるユネスコスクールは現在42校(H26・3現在、他に4校申請中)、当日はその中から、海星学院高、登別明日中等教育学校、石狩生振小、大通高の児童生徒と教職員の皆さんの活動報告があり、地域ユ協と連携した活動によって子ども達がより視野を広げ、思考力や他者との協働を実践する能力を磨いているということが窺えました。

特に室蘭ユ協の支援を受けてカンボジアスタディツアーに参加した明日中等学校の立野君が、「自分が学んだこと見聞きしたことを伝えていくことが自分の使命」と報告を結び、頼もしさと未来への希望を感じました。

また、最後に「UNESCO創造都市 札幌」と題して、上田札幌市長が特別講演をされ、「UNESCO創造都市」(メディア・アーツ部門)に加盟認定された(2013.11.21)ことを受けて、未来の都市課題と向き合いつつ革新的取り組みをしていこうとする未来志向の都市づくりについて、熱い思いを語ってくれました。

尚、本大会には丸田会長と私が参加しましたが、小樽唯一のユネスコスクール高島小から上泉校長がご出席下さり、研修の時間を共有できたことを大変嬉しく思いました。(安達久美子)

## あとかき

「なぜ?戦車を造るのは極めて易しいのに、学校を建てるのはそんなに難しいのか」

これは、2014年のノーベル平和賞受賞者、17歳のパキスタンの少女マララ・ユスフザイさんの演説の一節です。

長年にわたる私達の世界寺子屋運動によって、非識字の子ども達(特にアジア・アフリカ)に少しずつ教育の機会が広げられてはいるものの、これからも息の長い取り組みが必要だと改めて考えさせられた言葉でもありました。

私達が提供した数枚の書き損じハガキが、どこかで誰かの役に立っているのなら、こんなに嬉しいことはありませんよね!

広報委員 田澤真弓・安達久美子

会報「小樽ゆねすこ」第29号

2015年3月31日発行

小樽ユネスコ協会

事務局 小樽市花園5-10-1

小樽市教育委員会 生涯学習課内